

セミナールーム十訓より一「課題には誠実に取り組め」

学校の新学年度が始まって、早くも一ヶ月が過ぎました。新しい友達や先生にも慣れてきて、塾生諸君は勉強に運動に頑張っていることと思います。また、保護者の皆様におかれましては、日頃より当セミナールームの指導等に御理解、御協力をいただきましてまことにありがとうございます。

さて、セミナールーム十訓の解説第二回目は、「課題には誠実に取り組め」です。ひとくちに課題と言いましても、“台形の面積の公式を覚えてきなさい”とか、“計算ミスをなくすように”など達成目標を与えられるものから、“このプリントをやってきなさい”と実際にやるべき物を与えられる、いわゆる宿題と言われるものまでいろいろあります。この十訓で言っているところの課題とは、後者の宿題を指しています。

当塾に入塾したての塾生諸君や保護者の方々は、塾の宿題のチェックの厳しさに驚かされているのではないのでしょうか。小学生の漢字ドリルはていねいに書かれていなければ全て書き直しをさせられます。調べればわかることを調べないまま空欄で提出しているものは添削してもらえずに返されます。やり忘れた宿題は、必ずやって、塾がない日でも提出に来なければいけません。算数の途中計算は、教わったやり方でやれていなければ、たとえ答えが合っていたとしてもやり直しです。

なぜ小学生のうちからそこまで厳しくやらせるのでしょうか。それは、この十訓を守れる人間に育てて欲しいからです。“誠実に取り組む”とは、提出の期日を守ることはもちろん、教わったやり方で、ていねいに、一生懸命調べたり考えたりして、精一杯取り組むことです。上手とは言えなくてもていねいな字で書かれた物や、正解には至ってはいなくとも一生懸命考えたあとのみえる提出物には本当に好感が持てます。こちらも全力でサポートしたく思います。逆に提出日を過ぎても出されなかったり、出されたとしても殴り書きで枠からはみ出すような書き方をしていたり、やっつけ仕事で解答や友達的答案を丸写ししたり、教えたやり方で全くやっていたらなかったり、といった提出物を手にすると、添削する気も失せます。

実は、“課題に誠実に取り組む”ということは、自分の力を伸ばすためであることは言うまでもありませんが、見て頂く相手への礼儀でもあるわけです。“とりあえず出しておけばいい”という気持ちで不誠実に取り組んだものは、絶対にその気持ちが相手（採点者）にも伝わっていると思って下さい。これは学校への提出物に関しても同じことが言えます。いい加減な提出物では評価する側の神経を逆なでするばかりになってしまいますよ。